

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 チャイルドウィッシュみらい			
○保護者評価実施期間	R7年 12月 1日		～	R7年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数)	22名
○従業者評価実施期間	R7年 12月 20日		～	令和7年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・土台型療育（こころとからだと脳）をもとに、療育のプロとしてひとりひとりに寄り添った支援を行っている	・お子様の様子を観察し、氷山モデルを用いて背景を考えながらその時々に合わせて支援を行っている。気持ちの受容・寄り添いを大切にしている。専門的支援の実施もしている	・支援の質を向上させるために研修へ参加し、その都度支援に取り入れ、職員間でお子様との関わり方や支援の統一を行っていく
2	・支援中の課題に対して全員で話し合っていることができる	・支援で実施してみて良かった声掛けや意識したことをその日のうちに共有している	・全員が統一した関わりや支援ができるようより話し合う時間を設けていく
3	・研修の充実（グループ、本部研修等）	・毎月グループで行っている研修へ参加し、支援に取り入れている。研修に参加できなかった職員には紙面・口頭で共有を行っている	・より幅広い知識向上のために、事業所内での研修、外部の様々な研修への参加や過去の事例検討も再度行っていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流や地域のお子様との関わりが少ない	・特性を考慮すると大きなイベントや企画の実施が難しい	・外出の機会を増やす（少人数ずつ公園や図書館にいく等）
2	・毎月お茶会を開催しているが、参加人数が少ない	・保護者様の仕事の都合で参加が難しい ・お茶会の中でペアレントトレーニングをしているという情報の周知が不十分であった	・参加しやすい曜日や、やってほしい内容などのアンケートを行う
3			